

ソグのカルト

Cult of Sog

津波の精霊

z j v

1. 神話と歴史

“源初の水”ザラマカは“深淵の女神”フラマンスと“源初の大洋”にして“一なる水”のスラムク、そして“深淵の守り手”にして“知恵の長”なるダーリアスを生んだ。(Of these)ダーリアスとスラムクはヘラー、トリオリーナ、ニーラットを生んだ。ヘラーとトリオリーナはキング・ウンディーネ (King Undine) を生んだ。キング・ウンディーネは“島の飲み手”(Island Gulper)、“船の叩き手”(Ship Beater)そして“津波”(Tidal Wave)を生じた。“津波”は“津波の精霊”であるソグとその後にウンディーネたちを生じた。

ソグのルーンは「水」と「無秩序」と「変化」である。

ソグは“海を行くもの”ウェアタグ人の戦神であった。平和の時には、彼の力は乾いた造船所に偉大なウェアタグ人の竜船を運ぶために求められた。この儀式は術者と同じ種族の処女の生け贄が必要とされた。

第二期の最後に (In the closing years of the Second Age) ソグの力は呼び起こされ、そしてジルステラの神知者の群島を死の波の下に沈めた。この後、大閉鎖 (the Closing) として知られる大いなる呪いが大洋を襲い、ウェアタグ人のほとんどを壊滅させた。ソグの礼拝はこの時からかなり衰退した。

ソグの聖祝夜は「無秩序の週」「荒れの日」である。大聖日は「海の季」「無秩序の週」「荒れの日」である。

2. 入信者

必要条件: 志願者は1ポイントのPOWをソグに捧げねばならない。

精霊魔術: なし

3. 波の支配者 (Wave Master) (司祭)

必要条件: 志願者は以下の技能を90%以上で習得していなければならない; 浄化 海語会話 召喚。彼は抽象的にPOW×3で代用されるソグの許しを得なければならない。司祭は同盟精霊は得ることができない。

特記: “波の支配者”は神性介入を1d10で試みることができる。また、彼らは魔道士や祈禱師になってもよい。

一般神性魔術: 《神託》《破門》《持続》《精神結合》《聖域》《靈視》《礼拝(ソグ)》

特殊神性魔術: 《“島の飲み手”招集》《“船の叩き手”招集》《“津波”招集》

4. ソグ特殊神性魔術

《“島の飲み手”招集》 Call Island Gulper

4ポイント、儀式(召喚) 複合可、一回限り

この呪文は島の上で唱えなければならない。それは5d10メートルの島を破壊するか、それに等しいダメージを構造物に与える。

《“船の叩き手”招集》 Call Ship Beater

3ポイント、瞬間、遠隔(10km) 複合可、再使用可

この呪文は12km以上離れていない船に唱えなければならない。巨大な十字の膨らみの形をした“船の叩き手”が現れ、船はそのせいで2d6分かって突然止まってしまう。船長が船舶操縦に失敗すると、呪文1つごとに1d10のダメージを船に与える。成功した場合ダメージは半分になり、クリティカルで成功するとダメージを受けないで済む。

《“津波”招集》 Call Tidal Wave

6ポイント、儀式(召喚) 複合可、一回限り

術者と同族の混沌に汚されていない処女を生け贄として捧げなければならない(アギモリ人、ウェアタグ人などは人間とみなされる)。1d100+20分以内に、“津波”がやってくる。それは呪文ごとに50メートルの高さを有し、そのSTRは高さの2乗である。

5. 友好カルト

キング・ウンディーネ

《召喚(ウンディーネ)》と《支配(ウンディーネ)》を与える。

6. その他

神性介入

ソグの神性介入は彼の子ども - グレート・ウンディーネ - の一人を召喚する。グレート・ウンディーネは4d6の標準INTを有している。INT分の精霊呪文を有しており、また2d6個の神性呪文を有している。その他の点では、(2d6×10)立方メートルのウンディーネと同様に扱う。グレート・ウンディーネは術者の命令一つを実行しようと試み、そしてもし自身のHPが半分以上に減ったのなら去っていく(訳注: 命令に成功しても帰るのでしょうか)。グレート・ウンディーネは自分のMPと対決して勝利したウンディーネを支配することができる。

神託

ソグは大洋の潮流、暗礁などについて関係のある神託にのみ答える。

7. この文章について

著者: Antti Rasila

翻訳者: R I Z E / 奥田和幸 (zorak@nifty.com)

協力: 村瀬尚之氏

この文章は、著者 Antti Rasila 氏が記述したものを、R I Z E が翻訳したものです。非営利の利用に限り、複製が許可されます。他媒体への転載については、R I Z E にご相談下さい。

訳文におかしな点があるかもしれません。その際は、遠慮なしにご指摘ください。よろしくお祈りします。

この文章は公式版ではありません。この文章を使用するにあたっては、各人の判断でご利用ください。この文章の使用により、何らかの害があったとしても、著者並びに翻訳者、協力者は関知しません。